

分野：Ⅲ 気管支ぜん息等の動向等に関する調査研究
① 生物学的製剤を使用した患者の長期経過等に関する調査研究

Ⅲ－①

業務委託名：生物学的製剤を使用した若年成人・小児ぜん息患者の長期予後改善と生産性向上に関する調査研究

調査研究代表者氏名：藤澤 隆夫

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.50
(3) 研究計画の妥当性	1人	4人	1人	0人	0人	4.00
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						3.75
(6) 総合評価(第2評価)	0人	5人	1人	0人	0人	3.83
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						3.78

2 記述評価
・長瀬班との十分な連携をとって研究を進めることが必須条件となる。 ・医療経済の視点から考えると、現状の生物製剤の使用は過去の生物製剤が出始めた時と比較して前段階の治療が甘くなっているため、以前の基準と比較すると対象となる患者数が増加していると思われる。この研究はかつてICSを普及させる時の副作用への懸念や恐怖心を背景にブレーキをかける流れと異なり、高価ではあるが有効だから過去の通常の重症持続型に向けた治療で効果不十分の場合には使用を推奨するという流れであることを考慮する必要があると考えられる。計画に沿って研究が進展することを望んでいる。 ・重要な調査研究であり、今後、順調に研究が進展することを期待する。 ・若年成人、小児についての生物学的製剤による長期予後改善等に関する重要な研究である。 ・次年度以降の益なる研究の進捗を大いに期待する。 ・気管支喘息患者に対する生物学的製剤の使用が、はたして社会的損失の軽減に寄与するかどうかは現時点で定かではない。本課題の成果が期待される。 ・BRIGHT研究の症例登録の見通しが明確でないように思われる。5年の研究期間であるので、より研究の進捗管理が重要であると考えられる。 症例がACAGI研究参加者をはじめ複数のソースにわたっているために、データの質の違いが解析結果に影響を与えないか等の検討が必要と考えられる。